

# FRESH No.35

# 農大

平成26年3月号



鳥取県立 農業大学校

〒682-0402 倉吉市関金町大鳥居1238

TEL 0858-45-2411

FAX 0858-45-2412

E-mail : [nogyodaigaku@pref.tottori.jp](mailto:nogyodaigaku@pref.tottori.jp)

HP : <http://www.pref.tottori.lg.jp/noudai/>



卒論発表会の様子

## 面白いと思える

## 農業を目指して

校長 安養寺 寿一

「自分で経営する農業は非常に面白い仕事。人から指示されて農作業すると3Kの職業。」農業は面白いかという問いに対するある新規就農者の答えです。農作物を育てる経営者は、常に天気予報や作物の生育状況に気を配り、様々な管理を行います。一つ一つの作業は単純でも、頭の中では作物が訴えている事や次に何をすべきかで一杯です。期待通りの収量・品質が確保できたとき「最高の喜び」となるのですが、自分が経営者・管理者であれば喜びも倍増するということです。

本校のプロジェクト学習は、学生の自主的・主体的な学習意欲を持って取り組むこととしていきます。すなわち経営者の気持ちになって取り組む心構えが必要です。卒論はプロジェクト学習の集大成ですが、農業はたった一度の経験で結論を出せるものではありません。この取組みを継続することが大切です。本校での学習経験を生かし真に面白いと思える農業を実現してほしいものです。

# 2年間の集大成!! 卒業論文発表会

本校では、学生が実際に農作物等を生産しながら、自ら設定した課題の解決を図る「生産プロジェクト学習」を教育の柱にすえています。そのプロジェクト学習の成果を、養成課程の2年生22名がそれぞれ卒業論文としてまとめ、発表しました。

なお、金賞の山崎さん、銀賞の國本さん（いずれも野菜コース）は、中国四国ブロック農業大学校プロジェクト発表会にも出場し、山崎さんは優秀賞を受賞して全国プロジェクト発表会への切符を手に入れました。

## 金賞 山崎 真史



僕は小玉スイカについての研究をしました。内容をまとめるのに一苦労しましたが、無事にやり遂げることができ、今はほっとしています（写真右）

## 銀賞 國本 伊代



私は、プロジェクトでイチゴの六次産業化を学んできました。栽培から始まり、加工品開発、販売まで自らの手で行う事ができ、達成感を感じました。特にイチゴ生キャラメル「いちご・いちえ」が、たくさんの方に高評価を頂き、農大ブランドに認定されたことは大きな自信へと繋がりました。

## 銅賞 高 操香



プロジェクトでは、農大のトマトの栽培法の改善に取り組みました。栽培期間中、失敗も多くありましたが、先生方の助けがあり、最後までやり遂げることが出来ました。

# 校内意見発表会

12月5日、意見発表会を開催しました。学校での実践学習で学んでいることや、就農など将来の目標に関することなど、日頃の活動を通じて考えていることや農業に対する想いなどについて1年生22名が発表しました。

果樹コースの文村さんは、学校代表として、1月23日に岡山市で開催された中国地域農業大学校意見発表会でも、堂々と発表を行いました。



### 『発表要旨』

「人生は一度きりだ」。そう思い、2年前に会社を辞め、縁あって地元・福井県のブロッコリー農家でアルバイトをすることに。これがきっかけで自分も農業経営をしてみたいと思い始めるようになりました。そして、将来的にナシを中心とした経営を目指すため、鳥取農大に入学しました。

私の目指す農業経営において、販売面では①“ここでしか買えない”ものを販売すること、②高齢者をターゲットとした商品・サービスの充実、生産面では①雇用労働力で生産管理できる仕組みづくり、②耕作放棄地の管理拡大で経営面積・収量の増大を志向していきます。

これから農業者として自立できるように①就農地にとけこむこと（自分の義務を果たす）、②栽培技術の習得（サイエンスに忠実に、かつ自分の個性を出す）、③販路開拓（様々なコミュニケーションを大切に）の3つを意識して行動していきます。



### 中国地域農業大学校意見発表会・本校代表 文村 権彦（果樹コース）

この発表会をとおして、他の人の農業にかける想いや背景などを知り、「就農を何が何でも成し遂げてやる」という気持ちがより一層強くなりました。このような刺激を得る機会を与えて下さった学校・先生方に感謝です。

# 短期研修科の取り組み

平成20年度からはじまった研修課程短期研修科は、平成24年度までに延べ156名（実数125名）の研修生が修了し、このうち94%の118名（実数）が就農しています。

OBの中には地域の農業の担い手として活躍している方も多くいらっしゃいます。



## 研修生OB

**末兼弘章さん**（倉吉市）  
H21年1月開講受講者



私は就農5年目になります。

スイカ、メロン等の果菜類を中心にビニールハウスと露地で1.5haをほぼ一人で経営しています。

春になると、作付け準備で非常に忙しくなります。

また、農業以外では、とにかく地元の様々な催しや会合に参加するよう心がけており、その甲斐があつてか、作付けを頼まれる事も増え徐々に規模拡大しているところです。

## 研修生OB

**東地 大さん**（北栄町）  
H24年7月開講受講者



梨栽培での就農を目指し、農大で1年半勉強させていただきました。講義や実習をとおして多くの事を学びました。

大変有意義な1年半でしたが、この研修で一番良かったのは私と同様、就農を目指す仲間に出会えた事です。彼らとの出会いは、私自身の大きな財産になると思います。

お世話になった先生方、関係機関の皆様、ありがとうございました。一人前の農業者になれるよう頑張ります。

**城内祐佑さん**（倉吉市）  
**森田宏一郎さん**（淀江町）  
H25年4月開講受講者



研修では、牛の飼養管理やTMR作り等の基本的知識と分娩から哺育期、育成期及び乾乳期の管理技術を学びました。今後は農大で学んだ事を活かし将来の自立就農に役立てたいと思います。研修をさせていただき、ありがとうございました（城内：右）。

定期的で開催された特別講義は、実体験に主眼を置いた話題を聞き、興味深く、良かったです。

ただ、繁殖経営を目指す私としては、牛に関する話題が無かったことは少し残念でした（森田：左）。

**藤川優一さん**（北栄町）  
H25年10月開講受講者



私は京都から妻の実家のある北栄町に移住し、スイカ、ナガイモ、らっきょうでの就農を目指し研修中です。

来県した当初に、畑でスイカを食べさせてもらった時、言葉にはできない感動を覚えたのが、農業を志すきっかけとなりました。

就農に向け、常に意欲を持って色々な事を学んでいきたいです。

# 今、旅立ちのとき

学生会長 藤井 裕國

農大に入学してあっという間の2年間でした。入学当初は、分からないことがたくさんありましたが、先生方や先輩達に親切に教えてもらい成長することが出来ました。専攻実習では、様々な果物の作り方を学び、それぞれの特徴と栽培の難しさを実感しながら、仲間達と切磋琢磨しあいました。

私は学生会長として、とても貴重な体験が出来ました。学生会では、各自の担当を決めることで役割を分担し、協力して活動しました。いろいろな行事をとおして結束が深まったように思います。また、初めて経験した寮で活は楽しいことが多く、思い出がたくさんできました。

卒業後の進路は人それぞれですが、農大で学んだことは社会生活において私達の基盤になると思います。この基盤もとに、さらに大きく飛躍していきたいと思っています。2年間本当にありがとうございました。

卒業を迎え、各コースごとに卒業生からメッセージをいただきました。また、1年生からは卒業生に向けて、エールや感謝の言葉をいただきました。



## 卒業生からのメッセージ

私達は、たくさんの事を農大で学びました。2年間というとても短い期間でしたが、その限られた期間でも、様々なものを築けると実感できる充実した時間を過ごせました。もうすぐ2年生になる皆さんは私達より更にランクアップした学校生活を送れるよう期待しています。



## 果樹コース

### 1年生からのメッセージ

ご卒業おめでとうございます。昨年の果樹科は元科長のT.T先輩を中心に「よく学び、よく遊ぶ」を体現されていたと思います。私達もN科長を中心に、先輩達から受け継いだこの伝統をしっかりと守り、次につなげていきたいと思っています。

## 卒業生からのメッセージ

私は将来、白ネギ農家になろうと思いい、この学校に入学しました。入学後、白ネギだけではなくトマト等の様々な野菜栽培を学んだので、就農後は白ネギだけではなく趣味として、色々な野菜を作りたいです。農大での2年間はあっという間で、就農を目指している自分にとっては「もっと習えばよかった」と感じた2年間でした。今後は自分で考え、周りの農家の方たちと交流を持ち、日々成長していきたいと思っています。



## 野菜コース

### 1年生からのメッセージ

野菜コースの2年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆さんとは1年間という短い間でしたが、専攻作業や生活面で大変お世話になりました。卒業されてからはますますお忙しくなると思いますが、お体に気をつけて頑張ってください。2年間お疲れ様でした。

## 花きコース

### 卒業生からのメッセージ

農大で過ごした日々は、私の中で宝物です。先生方にはたくさん迷惑をかけてしまいましたが、この2年間で何倍も成長できたと思います。

今、私がここにいられるのは支えてくださった先生方や先輩、また、友達や後輩のおかげです。本当にありがとうございました！



### 1年生からのメッセージ

2年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんには、いつも多くのご迷惑をおかけして、本当に申し訳なく思っています。ですが、皆さんがとても優しく指導を下さったおかげで、多くのことを学ぶ事ができました。本当にありがとうございます。皆さんに負けないよう、私も頑張っていきます。

## 畜産コース

### 卒業生からのメッセージ

悔いが残らぬ様、何事も努力し日々頑張ってください。毎日を笑顔で過ごせれば、最高の人生だと思います。

また、ケンカなどないよう、平和で充実したに学校生活を送ってください。



### 1年生からのメッセージ

ご卒業おめでとうございます。

作業では、わかりやすく丁寧に教えてくださり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

先輩方が卒業されて寂しくなりませんが、新1年生と一緒に頑張っていきます。

## 作物コース

### 卒業生からのメッセージ

2年間農大の先生方お世話になりました。農大で学んだことを活かしていきたいです。来年のプロジェクトの調査や卒論頑張って！残り1年楽しい農大生活を過ごして下さい。鳥取に来た時は、作物科に顔を出します！！



### 1年生からのメッセージ

卒業おめでとうございます。

今までいろんな行事とかで分からない事とか、丁寧に教えて下さり本当に感謝しています。

卒業された後、教わった事を来年入ってくる1年生にしっかり伝えられるよう頑張っていきたいと思います。

## 研修科

### 粕谷耕平さん(野菜専攻)

全くの初心者だった自分は戸惑うことが多く、他の研修生についていくのに精一杯でした。しかし、一年間の研修で知識もつき、農業を楽しめるようになりました。この経験を自分の将来に活かしていきたいと思っています。



### 中原朱梨さん(野菜専攻)

鳥取県内で多く栽培されている野菜を中心に栽培を学び、特にトマトの栽培に興味をもちました。夏は暑く、大変でしたが、楽しく学べました。将来は、研修科で学んだことが生かせるように頑張っていきたいと思っています。

### 宮地 剛さん(果樹専攻)

IT企業を退職し、1ターンで鳥取に来て梨農家をを目指す事にしたのですが、農業の知識が全くなかったため、農大で1年間勉強することにしました。前職とは畑違いの分野でしたが、座学とともに実習を行う事で楽しく勉強できました。また、具体的な作業内容や段取り等も理解できました。出荷できない規格外品を休み時間に試食したり、新甘泉、爽甘等の新しい品種の味比べが出来る等、他の科に比べると美味しい研修だったと思います。

# 全国農業大学校等プロジェクト発表会

全国農業大学校等プロジェクト発表会が2月18日～20日に東京都内で開催され、中国四国ブロック代表として出場した本校の山崎真史さんが、養成課程の部で優良賞を受賞しました。

山崎さんは小玉スイカの消費動向の調査及び栽培技術に関する研究を現地の若手農業者と行い、鳥取県のスイカ産地に小玉スイカ導入のメリットを提言しました。



## 発表を終えて… 山崎真史さんのコメント

総勢300名の前で発表するのは初めての経験で、とても緊張しました。でも、無事発表が終わった時は、発表練習を今まで頑張ってきて良かったなと感じました。

この経験を自信に、これからも努力していきたいと思います。

## 学生のボランティア活動も進めています～地域貢献活動の取組紹介～



動物救護施設開設イベントのボランティア  
(左2名が学生)

農大では地域貢献（ボランティア）活動を、学生と地域との結びつきを深めるための活動として実施しています。これは、年間2回を目安として自主的に行うものです。実施内容には、農大の地元である関金町のイベント運営をお手伝いするものや、トライアスロンやウォーキングイベントなどの運営にかかわるもの、あるいは、学生の地元の祭りを手伝うものなど多様です。中には、高齢者の家の雪おろしなどもあります。

これらの活動をとおして、家族や農大の同級生、講師など、日頃の枠を超えた人と人とのふれあいの機会をつくることができます。また体を動かして感謝される貴重な経験も得られます。どうぞ、身近なボランティア情報を農大の方までお寄せください。よろしくお願いします。

## 聴講制度により一般の方も講義を受けていただけます

農業大学校では、「聴講制度」を実施しています。これにより農大学生が受けている講義を、農業者をはじめ一般県民の皆様にも受けていただくことができます。農業技術や経営に関する専門的な知識を深める機会ですので、多くの方に利用していただきたいと思います。講義には、農大の講師や外部講師による一般の講義以外にも、著名講師を招いて行われる「オープンカレッジ」も年4回予定しています。

希望される方は、農業大学校のホームページから実施予定を確認いただき関心のある講義を選んで申し込んでください。

用紙はホームページからダウンロードできます。また、電話で農大の方へも問い合わせいただいても結構です。



新潟県の若手専業農家が講師  
「独自ブランドのトマトを試食させていただきました」

## 平成26年度研修課程 短期研修科 研修生募集！

短期研修科は、1年以内の修業期間（12か月、6か月、3か月）で、社会人等で新たに就農を希望される方を対象に、必要な知識と基本技術について実践的に学び、すぐに就農できる人材を養成する課程です。

コース	開講時期	専攻	募集定員	主な内容
3か月	4月	果樹・野菜・花き 作物・畜産 <sup>(注3)</sup>	5名程度 (開講ごと)	農業の基礎的知識の習得と作物ごとの基本的技術を実習主体で学びます。
	7月			
	10月			
6か月	7月	果樹・野菜・花き	5名程度 (開講ごと)	基礎的知識の習得と、は種から収穫までの全栽培期間を通した作目ごとの基本技術を実習と講義で学びます。
	1月			
12か月	4月	果樹・野菜 花き・畜産	6名程度 (開講ごと)	経営計画講義や農家留学研修等をカリキュラムに組み込みより高度な知識と実践力習得が可能です。
	10月			

(注1) 受講願書の受付期間は、それぞれ開講月の2か月前です。4月開講の募集は終了しました。

(注2) 各コースとも、希望する専攻を1つ選んで受講します。

(注3) 作物専攻は3か月コースの4月、7月開講のみ受講可能。畜産専攻の6か月コースはありません。

(注4) 登校日は、原則として開講期間中毎日（土日、祝祭日等の休日を除く）ですが、週2日の指定研修日以上の日数出席した方に修了証書を授与します。

(注5) 受講資格は就農を希望し、修了後県内での就農が見込まれる方で、受講開始時の年齢が満65歳未満の方。

・通学が困難な方は、国際交流館への宿泊が可能です（有料）。

・農業にチャレンジしたい方は、お気軽に研修科までお問い合わせ下さい。